

# 釧根地域将来像検討委員会 第4回委員会

## 議 事 録

日 時 平成19年3月22日(木) 15:00~17:00  
会 場 釧路キャッスルホテル 3階 鳳の間

## 次 第

### 1. 開 会

### 2. 委員・アドバイザー紹介

### 3. 議 事

- (1) 第3回委員会の論点整理
- (2) 地域の現状と課題について(確認)
- (3) 釧路・根室地域の現状と目指す将来像の修正について
- (4) 将来像を実現するための社会資本整備のあり方について
- (5) 討議
- (6) その他

### 4. 閉 会

## 1. 開会

田中室長（釧路開発建設部）

釧路開発建設部の田中です。本日の委員会は、17時までの2時間を予定しております。よろしくお願い致します。

それでは、まず、資料の確認をさせていただきます。

お手元の次第に従いまして、資料が1から4までと、参考資料が1から3までとなっております。また、そのほかに名簿を添付しておりますが、いかがでしょうか、資料が不足されている方、いらっしゃいませんか。よろしいでしょうか。

本日、先ほどちょっと御連絡がありまして、栗林委員がちょっと遅れて参加されるということですが、その他、御出席の委員の皆様は、配付しております出席者名簿の記載のとおりとなっております。

それでは、以降の議事進行につきまして、小磯委員長、お願い致します。

## 2. 議事

小磯委員長

それでは、第4回になりますが、釧路地域の将来像検討委員会ということで、これから議事の方に入ってまいりたいと思います。

前回から少し時間が経過しています。たしか前回の第3回は、かなり議論が白熱をいたしまして、少し検討内容の基本的事項にかかわる意見も各委員から出されました。それを受けての取りまとめ、それをどういう形で今後検討に反映させていくのか、若干の時間がかかったものと推察しております。今回、一応年度末、当初予定の流れからいきますと最終の委員会になろうかと思えます。

この釧路地域の将来像検討委員会、釧路開発建設部というところで、今後のこの地域の開発業を進めていくに当たっての将来像というものをきっちり見据えていきたいということ、それによって、もちろん開発建設部だけではなくて、この地域における様々な政策主体の今後の取り組みというものに寄与していきたいという、そういう位置づけでの作業でございますので、今日はそういう、今後のこの地域の将来に向けての方向、それを踏まえ、これから御説明いただきますが、社会資本整備を中心とした施策展開のあり方、方向というようなところを、そのようなところを御議論いただきたいと思っております。限られた時間ですが、ぜひ審議の方、活発な御意見をいただきますよう御協力をお願いしたいと思います。

それでは、今後の進め方ですが、事務局の方から、用意いただいた説明資料を一括して御説明をいただいて、その後、審議に入るという形で進めたいと思います。

それでは、参鍋さんの方から説明の方をよろしくお願い致します。

参鍋次長（釧路開発建設部）

釧路開発建設部の次長の参鍋でございます。よろしく申し上げます。

それでは、私の方から資料の御説明をさせていただきます。

その前に、小磯委員長からございましたとおり、当初5回予定をしておったところですが、日程調整でありますとか資料の作成作業等の不手際がございまして、4回に

なったことをまず深くおわびしたいというふうに思っています。

それでは、資料の1から、それと、参考資料2という横表がございますので、それと資料の2 - 2の、この3点セットで見ただけであればというふうに考えてございます。

まず、資料1につきましては、前回、第3回の委員会での意見の論点を整理させていただいた資料でございますが、参考資料には、その論点を整理したものを、前回の、資料の2 - 2でございますが、修正をしております。どういうところを、論点をどういうふうに修正したかというものでございます。資料の2 - 2は、修正したところを見え消し版という形でちょっと赤く着色をしておりますが、変更したところを示しておる、資料2 - 1は、それを反映させたものでございます。

まず、資料1でございますが、これにつきましては、全体はあれなので、どういうポイントでやったかということをお説明させていただきますが、まず1ページ目で、全体につきましては、例えば、中ほどにありますバラ色の夢というようなところでありますとおり、今後の進め方として、非効率的な投資ができないということで、フルセットというよりも地域の特性を踏まえて社会資本の基本的視点を導き出す必要があるというような御指摘もございまして、これにつきましては、下の矢印の四角に括弧で書いてありますが、地域特性などを踏まえた社会資本のあり方を検討すべきというような御指摘というふうに理解させていただいておりますが、これにつきましては、これから後ほど資料3で御説明させていただきますが、社会資本のあり方、今日中心に議論していただくものでございますが、その基本的考え方という形で反映をさせていただいております。

安全・安心で質の高い食産業の構築につきましては、次のページを見ていただければ、色々書いてありますが、わかりやすいところでいうと、自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興につきましては、3つほどのポストのところに、国際化と始まっているところがありますが、今後の観光振興として、目標とする国際都市のイメージを持った、そういうような整備を進めていくべきだということで、この論点に對しましては、道外、海外に対する滞在型観光としての位置づけを明確にすべきだというような形で論点を整理させていただきまして、これについては参考資料の、例えば2の1ページの一番下のところでございますが、滞在型観光を促進するためというような言葉がありまして、特に東アジアを中心とした海外の観光だとか、そういうことを見据えて、地域の特色を積極的に、セールスポイントを明確にすべきであるというような論点ということで、将来像の中で反映をさせていただいていると。

こういうような形でそれぞれの論点を整理させていただきまして、資料の2 - 2のように修正をさせていただいております。ちょっと、修正箇所すべてはちょっと多いものですから、御説明は省かせていただきますが、こういう形で反映をさせていただいております。

続きまして、資料3で、今日、これがメインになるのかなと思いますが、これは、先ほど資料の2の方で、これまでに地域の現状でありますとか課題、それを踏まえた地域の目指す将来像について色々御議論していただいたわけでございますが、これにつきましては、社会資本にかかわらないことも含めまして、幅広く御議論をさせていただいたということでございまして、この資料3につきましては、その中から将来像を実現するために必要な施策のうちでも、特に社会資本の整備を中心としたものという形で整理をさせていただいた

ものでございます。これにつきましては、後ほど社会資本の重点化のための視点でありますとか、その進め方、またはソフト的な取り組み等の連携の仕方等についても御意見をいただければというふうに思っておりますので、よろしくお願い致します。

資料3について、簡単に御説明をさせていただきますが、まず1ページ目でございますが、1ページ目につきましては、社会資本のあり方全体を通しての基本的なスタンスというものを整理させていただいております。

まず、一つ目の視点といたしましては、他の地域と比べて比較し、特徴的に優れている自然環境ですとか、そういう、農林水産局でありますとか、そういう特色を踏まえた上で、それぞれ、農林水産業者でありますとか、各企業が持っているような活力、強みを、色々な場面で発揮できる、そのための環境整備であるとか基盤が第一に必要なだろうというようなことをまとめさせていただいております。ただ一方で、公共事業というのはなかなか、非常に財政的にも苦しいところがございますので、フルセットという整備から、地域特性に応じた、広域連携でありますとか役割分担、そういうことを踏まえた上での戦略的な投資というような視点がまず不可欠であるということでございます。

それと、戦略的投資ということにつきましても、地域の活動のボトルネックになっているような、その課題を解決するための投資でありますとか、災害などの対策と、地域の安全・安心を確保していくための対策、こういうものがまずは重要なのではないだろうか。官と民といますか、そういう形の連携につきましても、ただどちらがやればいいのかということではなくて、そういう線引きだけではなくて、もっと有機的な連携の仕方というものがあるのでしょうか、そういう仕組みづくりというのがまず視点として必要だろうということでございます。

最後の段落で書いておりますのは、これまでも社会資本は非常に、釧路港でありますとか、色々な事業等で蓄積をされてございまして、それらの蓄積されたストックを今後とも有効に活用していくのだと、そういう視点が重要であると、その施設のメーカーでありますとか、そういうところが視点としてあると。なおかつ、我々以降の、後の世代がこの地域に住み続けていけるような基盤になるための、より質の高い社会資本を蓄積して、良好な状態で管理するという、こういう視点が不可欠だということで、資料全体としてまとめさせていただきます。

なお、前回の資料2までの将来像につきましては、大きく5本の柱を上げてございましたが、5本目の柱につきましては、その前段の4つの柱を実施するような形で、ここにありますあり方と同様に、そのベースとなるようなものという形での位置づけというふうに整理をさせていただいておりますので、ここで社会資本のあり方につきましては、5本目の柱として、地域を支える基盤づくりというような柱がありますが、これにつきましては、まさに社会資本のあり方ということですので、柱からは除いております、資料3の方では4つの視点を引き継いで社会資本のあり方についてまとめさせていただきます。

2ページに安全・安心で質の高い食産業の構築に向けてという形をまとめさせていただいております。ここの四角に書いておりますものはすべて同じですが、これまでの柱として、目指す方向でありますとか目指すものということを中心にまとめたものでございます。食産業の構築につきましては、今まで議論したとおり、安全・安心で質の高い食材の生産化を、高付加価値化、販路の拡大といった、そういうような特色のある、全体としての食

産業の構築というのが図る必要があると。

そのために具体的に、ちょっと下で色々書いてありますが、具体的にでは何をするのかというのが3ページのところで書いてありますが、まず効率的な産業構造の構築というようなことが当然必要であるということで、これにつきましては、例えば排水路でありますとか農地であるとか、そういう保全整備し、農地等の機能回復による農作業の効率化とか生産性のアップ、こういうようなものに寄与するような、社会資本整備でありますとか、海象に左右されない漁港施設の整備による陸揚げ作業の効率化とか、このようなものでありますとか、就労環境の改善でありますとか、こういうものが大切だろうということでございます。

ちょっと説明が前後になりましたが、こういうようなものを、今現在、ではどうやっているかというのも、参考資料の3の方に、実はちょっと、18年度の状況として、社会資本整備を中核とした主な取り組みという形でまとめさせていただいております、これは、今言った効率的な産業構造の構築のところについては、これとリンクするような形で、今やっている事業を整理させていただいております。これは今後、これからすべてそういう形で対応してございます。

安全・安心な「食」の生産と持続可能な産業構造の構築につきましては、例えば環境負荷の物質の軽減を図る環境保全型農業の推進でありますとか、衛生管理型の漁業の推進でありますとか、そういうのに資するような社会資本整備をまずやっていくべきではないかというような形でまとめさせていただきます。また、産業を支える物流機能の充実といたしましては、物流機能としての基幹道路網の整備によりアクセス時間の改善でありますとか、大型船舶に対応した施設整備により海上物流の効率化でありますとか、そういうところをまとめさせていただいております。

続きまして、自然環境と共生し、地域産業と連携した観光産業の振興に向けてでございますが、これにつきましても、自然でありますとかそういう地域の産業活動を今後とも観光に生かすという、そういうものと連携した観光振興が今後重要であるような視点から、5ページに書いてありますが、サービスでありますとか情報提供、そういうものの高質化をまず目指す整備といたしまして、外国観光客などが個人でも円滑にできるような情報の高質化、情報提供の高度化、高質化というような観点から入れるということでありまして、新たなニーズに対応した観光産業を振興しなければいけないという視点から、地域、非常に広域的に点在して、観光資源が点在していますので、それを効率よく連携できるような、交通網の構築でありますとか、例えばクルージングなどの新たな観光のニーズへ対応したような社会資本整備というのがいるのではないだろうかということでまとめさせていただいております。

住みたくなる地域・生活環境の充実に向けてということで6ページでございますが、これにつきましては、地域の基礎・基盤となります人的資源と、専門的なサービスを供給できる、そういう人材でありますとか機能を維持、確保しながら、自然環境を享受できる、安心して暮らせる、そういう住環境、なおかつ必要な利便性を確保できる、そのための社会資本整備という形でまとめさせていただいて、そのために、まず利便性を確保するためのアクセス的な向上ということで、例えば釧路の都市圏におきます交通渋滞の解消でありますとか、地域間の医療でありますとか、そういう機能を確保するための交通の確保で

ありますとか、そういうふうに必要な社会資本というのをまとめさせていただいております。

豊かな自然を享受できる地域づくりにつきましては、例えば湿原環境でありますとか、河川環境を回復するでありますとか、環境に配慮した事業の実施でありますとか、そういうことを進めていきたいというふうに考えております。

あと、地震・津波や豪雨・豪雪などの災害に強い地域づくりという視点では、災害時におきますライフラインの確保でありますとか、関係機関との情報の共有化、伝達の即時性を強化できるための社会資本整備というような形でまとめをさせていただいているところでございます。

9ページになりますが、東アジアなどとの関係の強化に向けてということでございますが、これにつきましては、地域の強みであります質の高い食というものを、輸出振興を強化するほかに、観光としての、観光客の増加に対応した、東アジアとの交流を促進していく、それに必要な社会資本のあり方とか整備をまとめさせていただいております。

まず、海外での需要にこたえられる生産・輸送システムの構築といたしまして、例えば釧路港における港湾機能の強化、効率化でありますとか、そういう必要な社会資本という形でまとめさせていただいております。

観光・ビジネスの交流の促進におきましては、観光情報の多言語化でありますとか、そういうものに寄与するような整備という形でまとめさせていただいております。

以上、雑駁ではございますが説明とさせていただきます。

小磯委員長

どうも御説明ありがとうございました。

今日、今、最後に御説明いただきました資料3、将来像を実現するための社会資本整備のあり方、ここを中心に御議論いただきたいという、そういうお話でした。

1点確認させていただきたいのですが、今まで議論してまいりました、今回修正いただいた資料2-2、この地域の現状と目指すべき将来像、そこでは、一応今後の将来像ということで、五つの柱で、そのうち最後の地域を支える基盤づくりについては、共通項目ということで、それで1から4の柱で社会資本整備の方を整備されると、そういう理解でよろしいわけですね。

参鍋次長（釧路開発建設部）

よろしゅうございます。

小磯委員長

はい、わかりました。

そういうことで、各委員の皆さん、今御説明いただきました、特に資料3の社会資本整備のあり方を中心に、御質問も含めて結構ですが、御意見をいただきたいというふうに思います。

順次、御意見をいただくような形で進めていきたいと思っておりますので、最初に、石橋さん、いかがでしょうか。

石橋委員

このプロジェクトが始まって約1年の時間がたっているわけでありますが、この間にも、日本国内のみならず、国際的にも、ものすごい環境変化が起きているのです。これは、私どもにとりましては、一番身近なところでは日豪EPA交渉のあり方というのがありますし、WTO交渉というのがあります。この国際交渉の行く末というのは、日本というよりも、この釧路においても大変大きな影響を受ける問題が私は包含されていると思います。そういう国際交渉の帰趨がどうなるかによっては、この地域の経済が、今まで議論したことが根底からひっくり返るようなことも起こり得るというふうに思っているわけです。ただ私自身は、日豪の問題よりはWTOの方に極めて強い危機感を持っていますが、いずれにしても、そういう中であってのこの地域をどうつくっていくかということになるわけでありまして、その点から申し上げますと、ないものを求めてもしようがない、今あるものを、いかに大事に、上手に使って、そして生き残っていくかということだろうと思うのです。これは、人の問題もさることながら、やっぱり、この地域で生産されるものにどう付加価値をつけて生き残っていくかということに私は尽きるのかなというふうに思っております。

今までの議論の中でもありましたとおり、材料生産だけでは、もうこれからはやっていけないというのはそのとおりだろうと思いますので、私の立場からしますと、牛乳という素材をそのまま単に提供するというだけでなしに、ある意味でいうと、飲用乳にするということは、これは北海道の500万の道民で飲まれる数はたかが知れているわけです。そうすると、私はこの北海道という島から本州という島へ、しかも日本の人口の大半を有する京浜、あるいは阪神、あるいは中京という地帯に、北海道から、あるいはこの釧路から、どうやって送り届けて消費をしてもらうかということにもっともっと知恵を絞っていかねばならない、そのような時代に来たかな、それが、ある意味ではグローバル化社会に対する私どもの防衛策の一つになるというふうに思っております。そういう意味では、今までは、どうもこの北海道という島の中に制度的に閉じこめられてきた酪農という産業を、殻を破って外へ出ていくということに積極的に取り組んでいく、そういう時代に入ったというふうに私は思っています。そうしなければ生き残っていけないというふうに思っています。

小磯委員長

ありがとうございました。

大変厳しい時代認識の中でどういう方向を目指していくべきなのかと。また、各論にかかわる部分、また後で御意見いただければと思います。

では、次に近藤さん、何かございましたら。

近藤委員

今、小磯先生からも章立てについての御質問があったかと思うのですが、私もちょっとこの章立ての仕方に違和感が実はありまして、資料2-2の方では、要するに今後の地域の課題として、将来像として大きく5つのポイントが示されているわけです。この資料2-2に書いてある内容に関しては、僕は、今まで一年間やってきた議論の中で、ものすごく

く質の高い、レベルの高い議論としてまとまっているのではないかなというふうに思うのです。

基本的に、その後の社会資本整備のあり方、資料3です、こちらになると、何か資料2の関係と資料3の関係がよく見えないというか、全然違うことを2つが言っているのではないのかというふうにとらえがちな、残念ながら資料ではそういうまとめ方になっているので、例えば資料2 - 2で、1番、安心・安全な質の高い食産業の構築とあって、その後具体的な取り組みということももう、テーマとして出ているわけです。ではその具体的な取り組みをする上でどのような社会資本整備が必要なのだろうかということ、この中にむしろ埋め込んで書いてしまった方が、見る方も非常にわかりやすいでしょうし、また、上との関連性が非常によくわかるでしょうから、資料のまとめ方をそういうふうにしたらどうかというふうに一つは思っています。

それと、あと、社会資本整備のあり方の方を見ていて思ったのは、資料2 - 2で上げられている課題の中ですぼっと抜けているものもたくさんあるのです。それが、どういう過程で要するに社会資本整備の方になると抜けたのかということもちょっとわからない部分もあるので、その辺も含めて、もう一度資料の整理の仕方、例えばITの問題とかも、全然社会資本整備の方では触れられていませんので、そういう問題も、局としてはなかなか触れられない問題なのか、あるいはほかの部署と関係を図っていきながら改善していくのかという、そういう具体的な部分も含めて、できたら、この資料2 - 2の中の方に埋め込んでいただいた方が僕はいいいのではないかなというふうに思って資料を拝見しておりました。以上です。

小磯委員長

どうもありがとうございました。

少しまとめについての基本的な御指摘だというふうに思いますが、メンバーの方の御意見も踏まえながら、また事務局の方の考え方も後でまた聞かせていただければというふうに思います。

それでは順次、次に、辻中さん、お願いできますでしょうか。

辻中委員

まず、個々の問題ではなくて、ちょっと、私が思っていることをお話しさせていただきます。

安全・安心で質の高い食産業と、今言われましたように5つの項目が上がっております。それぞれ、その項目自体は問題ないのですが、地域性が、ここを見ると、本文を見るとわかるのですが、項目自体に私は、例えば釧根での安全・安心で質の高い食の構築だとか、次がもう、自然環境についても釧根のとかというふうに、全部入れていった方がいいのではないだろうか、その方がインパクトが強いのではないかと。これは、見慣れている人は、一冊になると、ああ、釧根のことだからそういうものは釧根のことだなというふうに全部通して思うのですが、見慣れていない人は、よそから入ってきたものというような感じで見ちゃうおそれがあるのではないのかなというふうなことで、この地域に住んでいる人たちがより身近にこの計画を見て、感じるというふうな視点で、そういうふうな項目



立てでされた方がいいのではないかなという気をしております。

それから、全体的に、実はことし、随分方々、桜も早く咲いたというようなことでの温暖化が話題になっております。環境ということで入っておりますが、羅臼なんかでも流氷がほとんど来ない、本当に短い間であったというようなこと。この地域、観光も含めてやはり、環境というようなことでは非常に、その環境の中で生かされているというふうなことを思うわけでありますが、そういう点では、温暖化の問題やなんかも、やはり、もう少し、底流の流れとして感じられるような表現というのですか、そういうものが必要ではないかなということを感じております。以上です。

小磯委員長

どうもありがとうございました。それでは、出村先生、お願い致します。

出村委員

今、辻中委員が釧根という言葉をもっと強調したらどうかという意見でしたが、私も全くそれに賛成です。ここで上げられている現状分析、それから将来に向けての色々な、そういう計画、言ってみれば北海道のどこでも、ある程度通用する内容を一つ持っているのです。それだけ釧根にそういうものが集中しているということにもなるのですが、釧根では、現状はこうで、こうすることによって将来はこうだとかという、その辺をもう少し強調した方がよろしいのではないかと思います。それから、逆のことですが、これは、ある面では私は北海道論の、一つの大きなたたき台になると思うのです。北海道全体にも通じ、また、その代表としてこの釧根ではという、そういう両方の読み方ができますので、この委員の方を含めて、また、ここに多くのオブザーバーの方もいますが、これだけの方が来て、このディスカッションに参加して、色々な知恵が出ると思いますので、釧根のこういう開発、将来像についてはどうかということをもっと強調することによって、北海道全体の普遍的な一つの指針になるという気がします。

それからもう一つ、最後の出口が社会資本整備ですが、ここの文書にもありますが、「公共事業としての社会資本整備」という言い方をしています。例えば社会共通資本といった場合、必ずしもハードだけではなくてソフトも含めた、そういうものをもって社会資本としています。伝統的には、社会資本という色々な概念がありますが、ここでは公共事業ということが大きな社会資本整備の手段になると表現されている。例えば農業とか環境とか、食品工業とかいう既存の産業をより活発にする、ITを使った新しい産業も興していく、そのための社会資本ですが、例えば道路のように、既に整備されているがまだこの部分が不足しているというのか、もう、一応それは整備が終わっていますよというのか。それから、IT産業とか、そういう新しい分野の社会資本整備をするときに、ないものをこれから、こういうものを新しくつくっていく、あるいはハードなのか、もう少しソフト的なのか、そういう違いが見えないのです。公共事業という形ですぐ社会資本整備というのが結びつけられるということは、せっかく色々ディスカッションしたのが、最後のまとめのところで一緒くたになって、古くさい色になるという、ちょっと惜しいなという気がします。

それから、これはグランドデザインですからそこまで書き込む必要はないかと思うのですがやはり、そういうITだとかソフトだとかということはありますが、やっぱり物をつ

くるという、これは、波及効果だとか技術だとかを考えると、一番大きな活動です。ただ、日本からそれがなくなっていくというのは、人件費が高いということで、日本からなくなっていく、物づくりがなくなっていくというのはその技術もだんだん落ちてしまいます。そういう、ハード、ソフトを含めて、社会資本を整備する場合に、地元の技術なりを結びつけて、そういうものを地元で育成していくという観点が欲しいです。次のアクションプログラムなりの具体的なデザインをつくる場合には、意識して書き込んでくれると、この社会資本整備を通じての、根釧の活性化ということに対しての具体的なイメージなり目標なりができないのかなという気がします。

小磯委員長

ありがとうございました。それでは、宮田さん、お願いします。

宮田委員

今、委員の皆さんのお話は、全く僕も同じなのですが、せっかく今まで3回やってきた、前回の、今、議事録もちょっと目を通したのですが、その中で、資料の2 - 2がそういった盛り込みをして、赤字で書いてもらっているところが前回の議論の中でも加えた部分で、2 - 1は赤くしないで書いたものだと思うのですが、でもやっぱりこれを施策で、建設部が色々、この地域の方で取り組まれている内容が参考資料の3だと思うのですが、釧路、根室、あるいは釧路支庁、道の関係も含めて入れるとこういう取り組みをされていて、それに沿って見てみると資料の3という形になって、この資料の3という形になりますと、先ほどどなたかもおっしゃいましたが、釧路地域と言わなくても、どこでもあるような、つまり1に関しては安心・安全の食の関係、2に関しては観光、3に関しては自由環境、4に関しては近隣の国との合流ということになると、これはほとんど別に、うちの釧路でなくても、どこでも同じ項目になってしまう。ですから、もったいないのは資料2 - 2のエッセンスを、もうちょっと、私たちの地域らしい形でもう少し描けるようにできないかなと。

ここの部分は非常に苦慮される部分だと思うのですが、やはり、この委員会はもう画期的な委員会で、開発建設部さんが音頭を取って、釧路の地域の将来像を考えるよと。目指すべき、例えば食の産業でいけば、日本のやはり自給率、今、40%の中で北海道が120%だが、これを道東の私たちの釧路が、オホーツク、十勝とある中で釧路が、こういったところまでの数値まで、こういった分野で供給できるような、そしてそれも安心・安全で、非常に質の高い、付加価値の高い生産もできるような地域になろうではないかと。例えばそれが10年後なのか、5年後にこのくらいなり、10年後にはこういう世界の人口の動きがあるとすれば、日本の中ではこういうふうになると、少なくとも。

先ほど石橋会長の方から、色々なF T Aの問題だとかW T Oの問題もありますが、そういった動きもある中でも、やはり私たちのスタンスとして、付加価値の高い、質の高い生産物、それから環境や色々なものにも取り組んだ、ほかの地域がまねできないような地域、環境と持続可能な社会のモデルになるのだというような例えば、そういったことが議論されてきたのですから、盛り込まれた中でこういった施策が、近々の中ではそんなに、ダイナミックに予算がつかないとなっても、こういったことを取り組んでいくのだと。あるい

は、観光でもやはり議論になった、きのう、おとといの新聞にも出ましたが、私たちのグループで、カジノを含めた複合観光を考える、これはカジノだけではなくて、免税店特区だとか、色々な特区を含めた、ほかの地域ではできない、体験できない観光を付加価値として創造しながら、一つの道東の観光を、日本だけではなくてアジアのスイス、あるいはそういった、アジアの中での宝と言われるような、道東の観光をつくるための一助となるべく、そういった計画を上げたりだとか、あるいは、これは校長先生とどこの会議でお話したのか、道新フォーラムでもお話が出ましたが、例えば私たちなんかのグループでまたもう一つ考えているのは、北の御所計画といいまして、やはり、世界の外交という中で皇室が御所として持っているのは那須の御用邸までが北限でありますので、東北・北海道には御用邸はないわけでありますので、これは地域として、例えば皇室外交、あるいは日本の首脳クラスの外交の場をできるような場所を、非常にセキュリティーも高い、そういった場所環境を提供して、地域としてそういったものを育てられないか。つまり、日本の観光の中で、日本国内の観光者だけではなくて世界の中でもトップレベルの観光地になるのだと。例えばそれを、10年後を目標にしてそういった取り組みをしていくのだとか、そういうような、やはり、未来像といいますか、私たちがなろうとする姿をもっと、具体的な施策としてはこういうふうになっていくので、落としどころの項目としてはこうなっていくのかもしれないのですが、しかし、そういったものもやっぴいこうではないかと。そのためには、本当は5番のところに書かれていたものというのは、そのために必要となる、非常に極めてソフト面の取り組みが、たしか5番目というのはそういう項目で書かれていて、これはインフラ整備というあれとはちょっと違うところがあるのですが、こういったものの活動が、やはり、それに実はつながっていくのだと。

実は、札幌で、別な委員会で、これは国交省の予算で経産局がやっていて、ITを使った創造的価値、創造的モデル事業というのがありまして、私もその委員になっているのですが、もう完全に、建設の動向とか、それから観光、それから医療と農業ですか、こういったところにソフト化が、事業モデル化のために札幌で色々やっているのですが、僕は札幌なんかでこのようなことをやらないで、やっぱり釧路のこの委員会をベースにしたアイデアからモデル事業として、先ほどの、ドクターヘリもこれに書かれていませんが、ドクターヘリ、医療に関しても完全に地域版のドクターヘリをやるだとか、あるいは、ITと農業を活用した高付加価値のモデル事業だとか、あるいは観光と、その委員会はITを核としたものでしたが、そういった意味では、色々なモデルが、各省庁でも考えようとしているので、ぜひともこの委員会の結果をベースにして、次年度以降、ソフト化だとかモデル事業化なんかぜひ、受けたらすごくいいだろうなという、ちょっと話が横にそれましたが、そういったことで、まとめられた資料の3にはそういった、色々、現場での難しさがあるのかもしれないのですが、何かそういったところがちょっと、盛り込みなどが抜けてしまったような感じがちょっとしております。

小磯委員長

どうもありがとうございました。

御説明いただいた内容についての各委員からの御意見を伺いました。

ここで一つ論点ということで浮かび上がってきたのが、今回のまとめの中で、今日、重

点的に御議論いただきたいという事務局の方から要請がありました資料の3、社会資本整備のあり方という部分、これが、今までの3回にわたる議論、この地域の将来像をどう目指していくのかという、かなり広範な、また活発な、かなりまた大胆な意見があったわけですが、それをまとめてきた流れの中で、少し、トーンダウンといいますか、これはやむを得ない部分はあると思うのです。釧路開発建設部として、ある程度の予算というものを想定しながら書くところこういうものになるのかなと思うのですが、やはり、メンバーの、各委員の気持ち、私もそうですが、ここまで、今までのような議論を積み上げていった中で、最終のやっぱりまとめの意味としてこれを位置づけるのであれば、やはり少し物足りないという。それであれば、せっかく今まで議論してきた将来像そのものを、どういうところを目指していくのかという、その中に、関連した社会資本整備ということであれば、それを位置づけていくような、そういう整理はできないものだろうかというのが、皆さん方のこう、かなり共通した御意見だったように、私自身も、そういう共感しながら受けとめたところがあるのですが、どうでしょうか、その辺に関しては、基本的にはやっぱり事務局の立場、まとめる、それなりの考え方はおありだと思いますので、少し御意見をお聞かせいただきたいと思います。

参鍋次長（釧路開発建設部）

明快な答えになるかどうかわかりませんが、第2章というか、資料2までのところは皆さん、先ほども御説明させていただいたとおり、広範な意見、社会資本に限らず、この地域がどうあるべきかというか、どういう方向を目指すのだろうかということについて提案いただいて、まとめさせていただいたという経緯でございまして、その中でも5は、先ほど宮田委員の方からもありましたとおり、前の4つの柱を実現するための、社会資本に限らず色々な、ソフト的な取り組みでありますとか、仕組みでありますとか、そういうことは、4つをやるために、横に串刺ししたみたいな形で必要だろうと、そういうのは我々もそのつもりでまとめてきたものでございます。

小磯委員長からありましたとおり、我々、やっぱりちょっと、公共事業というか、社会資本整備をやっているサイドでございまして、最終的にこの委員会も、最後は、ちょっと違和感を、我々もちょっと限界があるものですから、実はそこで我々としてはまとめざるを得ないということもあまして、皆さんの意見を、第2章といいますか、その中でしっかり受けとめさせていただいた上で、我々として、まず社会資本に限ってやらなければいけないという、例えばあり方として、今あるような社会資本整備だけではなくて、もっとソフトと連携するということはまだ書き切っていないのですが、そういうようなところを提案していただきながら、第2章までのところの将来像を実現するための下支えとなるようなものをまとめさせていただきたいということなので、実は我々もそういう感覚は、やりながら持つては一応いたのです。ただ、2章にやろうとすると、社会資本のあり方と目指す将来像というのが、混乱をするかなということもあって、まずは将来像をまとめようと、まとめ上げた上でということの方がいいかなという判断もありましてこういう形になりました。

小磯委員長

わかりました。そういうことであれば、今日の意見を踏まえて、改めて再整備していただく余地は十分あるということですね。

それで、これは私の、まとめというよりは個人的意見も含めてなのですが、今、各委員から御意見提示があった部分もやっぱりそこで調整するところはあると思うのですが、どうでしょうか、社会資本整備のあり方という、開発建設部として、こうやっていくということ、そこにだけ着目して、この検討委員会の議論があったわけでは私はないと思うのです。これは検討委員会の本題的な意義にかかわる部分だと思うのですが、やはり、この検討委員会で議論を進めてきた意義というのは、やはり、この地域は一体やっぱり将来どういう方向を目指していくのかということのを改めて、釧路、根室という地域、そこをひとつ対象に、長期的な視野で見ていったということで。その中で、私自身はやっぱり、非常に今回の検討委員会で評価すべきは、そのための、例えば社会経済環境のデータの整備だとか、それからどういうアプローチでそれを見ていったらいいのかという、その方法論だとか、そういうところは民間のコンサルタントの協力も得ながら、かなり、我々も注文を出しましたし、それによくこたえていただいたという、それは多分、このメンバーだけではなくて、今日、アドバイザーとして来ておられる、この地域における、行政の、あるいは関連する、政策関連の、色々な方々にとっても非常に有益な情報だったのではないかなと。

できればそういうものも含めて、今日、資料で、パワーポイントデータかが出ていますが、個別にこの地域にとって有益な情報があると思うのです。だからそういうものも、分析的な結果も含めて、この地域のやっぱり将来を考えていく、色々な、広範囲な情報という、そこにおける、今後どう目指していくかという考え方も含めて、この検討委員会としてももちろんまとめていくという、そういう部分がこの検討委員会の役割として、かなり大きな役割だというような位置づけであってもいいのではないかなと私自身は思いますし、ただ、そこで社会資本整備というものが抜け切ってしまうと、これは大変なので、今日、資料3のところでもまとめていただいたものを、それに、先ほど各委員から御意見がありましたように、私もそうなのですが、ややハード型の社会資本整備というところで整理されているのですが、これから必要なのは、それをどう生かしていくかという、ソフトな仕組みであり、知恵であり、そういうものも含めて、これを開発建設部がやるというまとめ方にしなくても、こういう意見があったとか、こういう形でのやっぱり問題提起というものが地域の中にあるとかという形で、地域の方たちが幅広く考えていただくためのまず材料をこの機会にしっかりまとめるといような、それぐらいの柔らかい姿勢があっても、私はいいいのではないかなと。また、そういう意味合いで、各委員から先ほどの御意見の返しがあったのではないかなというふうに、私なりに受けとめたわけです。

どうでしょうか、事務局、そういう形で今後、最終的な取りまとめというものを、受けとめていただくということ。

参鍋次長（釧路開発建設部）

検討したいと思います。

小磯委員長

さて、基本的な少し論点が出ましたので、そこはそういう形で整備するというので、あと、ここは付け加えたい、これだけはちょっと言い残したというところ、各委員の皆様いかがですか。石橋さん、お願いします。

石橋委員

産業のパーツという言い方はちょっと失礼かもわかりませんが、個々の問題ではなくて、やはりこの釧根地域のすべての産業が、異業種交流という言い方は正しいかどうかわかりませんが、そのすべての産業が全部かかわり合いを持っているはずなのです。それが、ある意味では力を発揮していない部分がある。それをこれからどう構築していくかというのは、私は、ある意味では今のソフトの問題も含めて一番大きな課題だと思うのです。

例えば、私どもの農業と観光という面でいえば、これから大きな産業に成長する部分というのが一つあるのです。これは、今、大変残念なのですが、首都圏、あるいは関西圏から、高校生の修学旅行の受け入れ要請がいっぱい来ているのです。ところが残念ながら受け入れできないのです。これは、農家のファームインを含めて、グリーン・ツーリズムの流れの中だろうと思いますが、言ってみればファームインというものを含めて、高校生が、極めて人間性を復活して帰るといった評価をいただいているのですが、残念ながら受け入れできるスペースが、あるいは受け入れできるだけのキャパがないのです。その辺は、観光産業の皆さんとどう連携をして、どうそのキャパを広げていくか。多分、この釧路だけでも、そういう要請のある高校を受け入れするだけで全国から50校以上は今でもあるのです。残念ながら、わずか数校しか受け入れしていない。これをもっともっと、それでは異業種交流の仕組みをもっと進化させて、それを一つの産業につくり上げていくという、そういう視点も私は必要ではないかなと思います。そういう提案の仕方も私はあるのではないかなと思います。

小磯委員長

ありがとうございました。近藤委員お願いします。

近藤委員

資料3の最終的な社会資本整備のあり方のところで、少し重みづけをしてみたらどうかというふうに今見ていて思ったのですが、例えば、これを会社の事業に置きかえてみると、従来の路線を継続して行うもの、あるいは、これは非常に地域にとって力になるので、今までよりもさらに力を入れて充実させるもの、そして物によっては、要するにやめるという可能性もあるわけで、これは徐々に縮小していく、またはやめるというもので、それとこれは未来に向かって非常に必要なので、新規に検討を始めるとか、新規に可能性を調査してみるとか、そういう事業の重みづけ、それを社会資本整備のあり方のところでうまく表現していただけると、地域の将来像が非常に明らかになってくるのではないかなというふうに思いましたので、一つ意見として述べさせていただきます。

小磯委員長

ありがとうございました。あと、いかがでしょうか。

それでは私の方も、ちょっと、委員長の立場を離れて、個人的意見を申し上げたいと思うのですが、これはある意味で前向きに、ぜひ受けとめていただければということで、やはり社会資本整備のあり方、先ほどは、少し、こういうものを出した以上は予算措置しなければならないという、決めて書いてしまうとういう話題になってしまうのかなとなったのですが、やはりこれからの社会資本整備のあり方というものを議論していく、特に地域の立場ということになると、ハードなものを量的に整備していくという、その発想に加えて、それを本当に、地域のこれからの活性化とか発展に向けて、いかに役立たせていくかと、その価値をより有効に高めていくことができるかという、ソフトな取り組みとの連携で社会資本整備全体の価値を増していくという、何か、そういうやっぱりシナリオが、これからの時代の社会資本整備のあり方としては、私は大事ではないかなと。その中でせっかく、開発建設部という地域の単位、今までややもすれば事業執行を主にやっていた組織がこういう長期的な政策づくりというものに、これはある意味では北海道で初めての挑戦ですし、私も国の審議会の、新しい北海道の総合計画の中で、釧路ではこのようがんばりをしていますよというPRもしている、そういう経験もある中で、ぜひそこは、やっぱり、地方のこういう建設部という単位だからこそできるという部分をこの中に加えてほしいなという、そのような思いで、少し具体的なお話をさせていただきたいと思います。

そのうち一つ、やはり、社会資本整備というものを非常に、ハードなものを基盤に置きながらも、ソフトな取り組みで、開発行政として今進めている、やっぱり代表的な取り組みの一つがシーニックバイウェイだと思うのです。これはやっぱり、これからの社会資本整備を活用したやはり公共政策として、やっぱりこういう方向というのは非常に大事だと思うのです。地域の、それこそ自治体だけではなくて、NPO、市民活動団体、商工会、経済団体、そこと、国の、まさに開発行政という行政機関が一緒になって、連携プレーで、新しい地域の活性化を目指していくという。

ただ、シーニックバイウェイというのはそういう非常に意味のある取り組みだと思うのですが、やはり、国でやることの限界もあるという。これはわかりやすく言えば、道路行政という枠組みの中で展開されている限り、地域の側から見ると、やっぱり色々、そこには限界もあると思います。地域の場合は、別に、道路行政だから、河川行政だから、農業行政だから、港湾行政だからという壁は全くなくて、地域にとっていいものはいいという。現実に今、シーニックバイウェイ、私も色々な各地域の取り組みを審査する審査委員会のメンバーなんかで見てくるのですが、やはり、農業地域の農業振興あり、それから港町の町づくりあり、川づくりあり、もう色々多種多様です。だから、場合によっては釧路開発建設部という中で今後シーニックバイウェイを進めていく中では、例えば今まで道路行政という枠組みの中であったシーニックバイウェイに対して、例えば農業部門とか、河川部門とか、港湾の部門とか、そういうところも、釧路ではもう連携、一致協力して、その政策を進めていくというような、いわば縦割りの殻をこちらの方からあえてきっちり超えていくような、そういう姿勢を示していくという、実はその辺が、これからの社会資本整備のあり方というものを地域で展開していく中で、私は非常に大事な部分ではないかなと感じているのです。

これはなかなか、国、霞ヶ関だとか、それから札幌あたりもなかなかこれは難しい、縦割り。でも、地域の現場であれば、それはもう、参鍋さんがやる気になれば、農業サイドのシーニックバイウェイの連携強化を図るだとか、そういうものをしっかり見せていくことが実は出来る。多分地元地域から開発行政を評価する物差しとしては、ここは私は非常に大事な部分ではないかなというふうに思うのです。そういう部分を少しでも見せることができれば、我々検討委員会で、これからの将来像を実現するための社会資本整備のあり方ということで議論していった意味もあるのではないかなというふうに思います。

それから、シーニックバイウェイの流れの中でもう1点申し上げておくと、やはり、道路行政の中でソフトな取り組みということで、やっぱり非常に、地域の活性化という面で、私は大事な取り組みというのは、ここ10年ぐらいを見ている中で、道の駅という、この取り組みがあります。私も今、海外経済協力ということで、途上国とか、そういう中で活動していますが、今、日本が伝えている大きな知恵、ノウハウのうちの一つは道の駅という仕組みです。少し前は交番だったのですが。これはなぜかという、本当に市場から離れて、ただ人が行き交うだけで、なかなかやっぱりその流れを、自分たちの地域の資源を生かして、自分たちの地域の付加価値として落とすことができる、そういう仕組みがない中で、道の駅という中で地元の農産物の直販をやったり、水産物の直販をやったりという。こういう流れというものをやっぱり、実は道東地域、特に釧路、根室地域、私、本州なんかに比べると、まだまだ数も少ないし、もっとやっぱり積極的に活用していったいいのではないかなと感じています。

そういった、シーニックバイウェイなり、道の駅なりと。では、社会資本整備のやっぱり外側の、少しソフトな仕組みによって、本来の基盤を価値あるものにしていくというような取り組み、その辺のところはぜひ、実践的に、心がけていかれる形で、この社会資本整備のあり方というもののやっぱり意味を少し高めてほしいなというふうに思います。

それからもう一つ、実は私、先週、四国の方に行っておりまして、ちょうど高知空港で胴体着陸したときはあの辺におりまして、どきっとしたのですが、何でそういうところにいたかという、実は四万十川という河川、高知においては四万十川という自然環境、清流、そういう非常に価値を持った、そういう河川というものを地域の価値としてうまく活用していく取り組みが進められていると。実は私、釧路川の流域委員会の委員長という立場でもありまして、やっぱり地元の、釧路川を初め、やっぱり自然河川、自然的価値の高い、こういう河川というものを地域の資源としていかに活用していければいいのかなという、そのような問題意識でちょっと、流域をずっと歩いてきたのですが、例えば四万十川の場合であれば、四万十川の、やっぱりきっちりとした、地域資源としての価値を高めていくための規制なり、管理のための条例というのが、独自のものがある。四万十ブランドということで、四万十川のイメージに沿った商品の開発だとかという。実は、ただ美しい清流を持った河川がそこにあるというだけではなくて、それをしっかりと価値として、地域の発展、活性化に結びつけていくための、そのための地域の幅広い取り組みがあるし、行政としての、社会資本としての河川をきっちり、適正に管理していくための、そういう取り組みもあるという。四万十川の場合は、高知県という県がほとんど管理している。したがって、県の行政としてやっているわけですが、例えば釧路川であれば、これはほとんど直轄区間、下流部の一部を除いて、ですので、今後、釧路川の整備計画もこれから御議



論されるという中で、実はそういう、釧路川というような社会資本を地域の中でいかに価値を高めていくかというような、周辺の、やっぱり仕組み、ソフトな知恵も、そういうものもあわせて考えていくというのがこれからの実は社会資本整備のあり方ではないかなと。できればやっぱりそういう方向を目指した、少し、しかも、一つでも二つでもいいと思うのです。具体的にやっぱりこういうものは、最後まで目指していきたいという、少し書き込めるぐらいの、少し汗をかいていただくと、大変ありがたいなと、こういうふうに思っております。

それから、最後にもう1点、これはやっぱり地方の立場から社会資本整備のあり方というものをやっぱり考えていく中で、これから、私はこの視点は少し欠かせないのではないかなというふうに思うのは、やっぱり今の、特に市町村をめぐる地方財政の厳しさです。社会資本整備を展開していく中でやはり、ある程度の受益者としての地方の負担というものはあるわけです。それが、従来のような形の財政の仕組みでは展開されない今は時代になってきたという。

例えば象徴的なのは、港湾管理システムのことです。北海道の場合は、市町村という自治体が港湾管理者になっている。したがって、港湾整備に関しては、例えば釧路港であれば釧路市がやっぱりどう動くか。それによってやっぱり港湾整備がなかなかやっぱり進まないという。それであれば、釧路港という港があることによる受益は釧路市で預かっているかということ、そういうことは決してない。北海道、道東地域、幅広い地域が、釧路港があることでその恩恵をこうむっている。ではそこになぜ釧路市だけが負担をしなければならぬかという、色々な実は、地方自治体が支える財政システムというのが社会資本整備のあり方において、色々な問題がある。そういう声は、釧路開発建設部からは出さないとはい思うのですが、検討委員会という立場で、地方ではやっぱりそういう問題もあるよというようなことを上げていくというのは、せっかく、やっぱり将来像を実現するための社会資本整備のあり方を議論していく上で、この検討委員会であれば、何かやっぱりそういう議論をした軌跡みたいなものを残しておきたいなという、そのような思いが、問題提起だけでも結構だと思うのですが、要は、そういうことで、余り、事務局としての、開発建設部がこれこれがある程度責任持ってやりますというような整理をされなくても、そういう部分はもちろん必要ですが、こういうやっぱり問題もあるというような、少し幅広い整理の仕方というものが、このまとめの中にはあってもいいのではないかなという部分も感じしております。

少し個人的な意見で申し上げましたが、お聞きいただければというふうに思います。

さて、あと、今日は少し時間もございますので、今日、アドバイザーの方もお見えですよ。それで、どうでしょうか、全員にというわけにはいかないのですが、少し、市町村の方から生の声というのも少しお聞きしたいなというふうに思うので、御発言をいただければと思います。それでは、根室市の長谷川さん、どうぞよろしく申し上げます。感想でも何でも結構です。

長谷川氏（根室市）

根室市の長谷川と申します。私個人的なことなのですが、12月に企画振興部に異動になりまして、今回この会議に初めて出席するもので、今日、委員のお話を聞きまして、それ

を踏まえまして、町づくりに何か役に立てたいなと思っていますので、意見というものは特に今のところございませんので、申しわけございません。

小磯委員長

市町村の方、せっかくですから御発言をお願いします。

佐々木氏（釧路町）

釧路町でございます。私どもも今、実は市町村の場合の大きなランドデザインというのは総合計画ということで、その実現をどうしていくかということで、一方でいくと、ランドデザインですから当然、総合計画の実現、これはやっていかなければならない。ただ、先ほど小磯先生からおっしゃいましたように、地方財政は非常に厳しくなっていると、これは非常に現実的な問題があります。その中で、では我々市町村の中でも、どういったものを選択してやっていかなければならないかと、今はそういうものが非常に求められているというふうには感じております。今までのこういった会議を聞いていた中でも、すべてが実現できるかということ、必ずしもそうではないという場合もありますし、当然、必要なものの優先順位、どういったものにまず先に投資していくか、こういったやっぱり観点というのをしっかり見据えた中で、それにはやっぱり、できればやっぱり地元の意向、そういったものも重視していただいた中で進んでいただければ、我々自治体としても大変喜ばしいというふうには感じております。

小磯委員長

ありがとうございました。それでは、厚岸町さん、お願いします。

北村氏（厚岸町）

厚岸町です。厚岸町もちょうど21年で、今第4期総合計画が終わる年という形になりますので、当然、これからの計画づくりの中では、道の総合計画もさることながら地元では、町民アンケート、それから、今既に行っている第4期総合計画の検証もしながら、住民のアンケートもとりながら、さらには開発の計画、北海道の計画等と連携するような形の中での計画づくり、その中では、今日、委員さん、前回からずっと言われている形、特に厚岸というのは1次産業の町ですから、漁業、農業を含めても、いずれにしても製品の付加価値を高めるということは、そして安心・安全を売っていかなければならないと、地域の差別化も図らなければならぬとか、色々な形では今意見としても出てきています。それをどう結びつけてやっていけるかと。ただ、言ったようにハード面では、厳しい財政事情の中でなかなか、ただ、厳しいから黙っていても、町は生きていけないので、何とかその中で工夫しながら進めていかなければならないと考えております。

小磯委員長

ありがとうございました。標茶町さん、お願いします。

佐藤氏（標茶町）

標茶町です。私ちょっと、今回の取り組み、全部は参加していないのですが、一つ気になったのは、先ほどの資料3でもあったように、やはり、せっかく民間の方々の多くの意見が出てきている中で、私どもも何年か前に総合計画をつくったのですが、例えば町の中には、確かに行政が主としてやっている事業もたくさんあるのですが、それ以外に実は民間という、色々な団体を含めて、かなりのウエイトを占める、地域の中の収支でいえばかなりの部分が実はあるという。その中でも実は、町の方向性に向けた産業というか、例えば地元の農協でしたら、町が例えば進める部分の方向性に乗って、一緒になって、地元の大きな経済団体として、方向性を例えば一緒にしていただけたらとか、そういった部分というのが当然あって初めて一つの町が形成されているのだろうなと思っているのです。ですから今回の釧根という一つのグランドデザインを描くときにも、やはりその辺の視点をどうやってまとめていくか、その中で、特に北海道開発庁という、日本の中でも北海道と沖縄だけというような特殊な国の機関があるということを手にとりながら、そこでの総合計画のあり方というか、今までにはないような形の総合計画ができれば、もっともっと、例えばそこに住んでいる方々が見えてくるといふか、住んでいる企業の方もそういう方向に向かっていけるのかなというようにちょっと感じていました。

小磯委員長

ありがとうございました。それでは、弟子屈町さん、お願いします。

岩原氏（弟子屈町）

弟子屈町です。先ほど、どなたか委員さんも言っていましたが、やはり釧根地区にこだわったといいますか、釧根地区でなければできないといふか、持っている付加価値を前面に押し出すような計画といふか将来像といふものを、やっぱり示していくべきだといふふうに思います。

それと、修学旅行生、農業体験をするということで、弟子屈についても、川湯温泉に泊まりながら釧根の酪農家のところに体験に出かけるというようなことも取り組みを、近年出てきていますから、何とか、うちも含めて、観光地、温泉地はあちらこちらにありますから、そういった観光と農業が連携したような取り組みといふか、そういったあり方やなんかについての、提言といいますか、将来像の中に盛り込んでいただければなというふうに思っております。以上です。

小磯委員長

どうもありがとうございました。白糖町さん、お願いします。

下重氏（白糖町）

白糖町です。御存じのとおり白糖町は、地理的、地形的条件から1次産業が主体で成り立ってきましたが、面的なものといふのはなかなか、農業も含めて、広がりを持っていませんのでできません。その中で、今後やはり、1次産業でとれたものを付加価値をつけていこうと、これは今、取り組みをしております。ただ、次に取り組んでいきたいと思っ

いるのは、先ほど石橋委員からもありましたが、修学旅行などの受け入れを含めて、やはり、うちは小規模ながら、小動物、羊だとか、また食の面でも色々取り組みをやってございます。100人単位での受け入れはできませんが、例えばもう少し小さい規模の受け入れを含めた交流人口をふやす取り組みはできると思います。そういうことも含めて、管内なり釧根で、白糠の役割がどういうものなのか、そういうものを位置づけていただくような将来像を書いていただければなと思っております。

それからもう1点、白糠は、釧路市との間に釧白工業団地を持ってございますので、ここにはまだまだ、受け入れるスペースもございまして、また、安くて安定した工業用水を供給できますので、ぜひここに、地元の1次産業からとれるもの、そういうものを使った、また、製造していきなり加工していく、近藤委員もおりますが、さらに皆さんでここをそういう位置づけをしていただければ、港は近い、空港は近いという条件もございまして、そういう面も、またこういう中で位置づけしていただければありがたいと思います。以上です。

小磯委員長

ありがとうございました。それでは、中標津町さん、お願いします。

西村氏（中標津町）

中標津町です。委員の皆さんからの御指摘があったとおり、資料の3を私も拝見したときに、やはり、ハード部門の意味合いが随分強いなという感じを受けまして、ソフト部門は一体どうするのだろうかという感じがしておりました。個々の部の、私たちは役場で働いていますが、非常に釧根の中でも狭い地域の中の話をしているわけです。そこで終始してもやはり仕方がないので、根室支庁なり釧路支庁なりの話で色々な話をするのですが、せっきく釧根という名前になったときに、やはり釧根共通してまとめているところではやはり開発さんの存在というのは非常に大きなものがあると思いますので、ハードはもちろん専門分野ではあると思いますが、この際、両地域をまとめるところという意味合いからするとやはり、ぜひ、先ほどからそれぞれの委員さんがお話しされているソフト部門も含めてまとめて、この際いっていただいて、広いエリアの中でやはり1次産業、酪農が主であります、一応畑作もありますが、漁業も、同じようなところも結構たくさんあると思いますので、非常にまとまりのある、山のこちら側というのですか、東部の釧根地域というのは非常に連携プレーのとりやすいところだと思いますので、そういった部分では、釧路の開発局に力を出していただいて、ソフト部分を含めて大きくまとめていただくのが、さらにこの地域の色々な付加価値を高めるようになるのではないかなという気がしておりますので、ぜひよろしくお願ひしたいと思ひます。以上です。

小磯委員長

ありがとうございました。羅臼町さん、お願いします。

久保田氏（羅臼町）

羅臼町の久保田と申します。資料3はやっぱり、かなり難しく、限界があるのかなと

いうふうに聞いておりました。第1回目の会議からそうですが、各先生が言われているように、やっぱり、釧根スタイルみたいな、色だとか、生活のにおいがするような、やっぱり、そういうことは大事な視点だなというふうに僕も思っています。ぜひ、アクションプログラムに、そういったものが、シーニックバイウェイの手法だとか、それから道の駅の手法などを通してあらわれることを期待したいなというふうに思っています。

それからもう一つ、最後に小磯先生が言われていました、地方財政の状況は、極めて厳しい状況にあります。破綻一步手前というような状況ですので、その辺のあり方も、提言でもいいですから、していただければなというふうに思っています。以上です。

小磯委員長

どうもありがとうございました。

こちら側にもアドバイザーの方がおられます。せっかくの機会なので、それぞれの各支庁から代表してどなたか、感想でも結構なので。まず釧路支庁からいきましょか。釧路支庁さん、お願いします。

図所氏（釧路支庁）

先ほど総合計画の話が出ましたが、北海道の方でも、今、平成20年に向けまして、総合計画の検討を進めているところでございます。この総合計画の中では、北海道、特に支庁単位で施策をつくっていく、圏域策定展開方針というものが、今度の総合計画の一つのキーワードになるのかなと思っております。たまたま今、釧路支庁、根室支庁というふうに、この地域、支庁が2つございますが、次期総合計画のときにはやはり圏域単位、圏域の形はまだこれから議論をするということになってございますが、圏域単位で、地域、仮に釧路、根室という単位で考えると、そういった地域を含めた課題、そういった地域を通した課題として方向性を議論していくことが必要ではないかなと思っております。そうした意味で、資料の2-2で出された地域の目指す方向性、将来像というのは、非常に、我々としても、これは大事なものだなというふうに感じてございます。

資料3につきまして、見せてもらいまして、私も、逆の立場としましてなかなか、社会資本整備という観点からで考えるとやはりこういった書き方になってしまうのかなと個人的には思っておりました。ただ、どうしてもソフト部分とか観光部分というのはやはり、市町村、道、支庁、そしてNPOとか民間、色々な方が協力して、多分、資料2-2の見えている地域の将来像を構成していくことになるのかなというふうに感じさせていただきました。今後とも、こうした資料を我々の方も生かして、支庁の行政に役立てていきたいなというふうに感じております。以上です。

小磯委員長

ありがとうございます。根室支庁さん、お願いします。

和田氏（根室支庁）

根室支庁の和田と申します。この会議ですが、大変皆様方深い議論をされておりまして、まとめるデータが紙面の限りがありますので、色々な取りまとめの仕方で、色々な意見が

出てくるところはやむを得ないのかなというふうに思っています。ただ、我々、第1回から参加させてもらっていますので、その議論の過程というのは十分承知しておりますから、今、我々も長期計画をつくっております。先ほど小磯先生からお話がありましたが、我々の地域としてこういう議論がなされているということは、長計の議論の上でも、我々大変心強く思っていたところでございます。

我々としては、この結果のまとまったものを、やはりその経過とともに、支庁の中で見砕いて、北海道長期総合計画の方にそれを反映できればという具合に考えているところでございます。以上でございます。

小磯委員長

どうもありがとうございました。運輸局さん、いかがでしょうか。よろしければ、何か。

赤間氏（北海道運輸局釧路運輸支局）

北海道運輸局釧路運輸支局です。私の方と開建さんとは、観光面でダブって、目的は同じような観光とか、道路観点の運行とかでやっている部分もあるのですが、このまとめ部分につきましては私どもも、必然的にこういうおさめ方になってしまうのかなというような気がしております。

細かい話なのですが、私どもでもクルーズ振興をやっておりまして、その中でクルーズ船の誘致に向けて、クルーズキーパーソンを呼んで話をしている中で、私どもは誘致に関して、船をつけるのはいいですが、では受け皿として、外国人が市内を歩くときに、どれだけの通訳がいるのですかと。例えば300人、400人の外国人が来たときに、それに対応できるだけの通訳は確保できますかというような話をされました。なるほどなという話も聞きました。ですから、私どももそうなのですが、各自自治体の方にも情報提供は必要かなというふうに思っております。先ほど浜中の会長さんがおっしゃられました修学旅行の関係なのですが、これにつきましても、私ども北海道運輸局の方で、各高校あてに、その受け入れがどうなのかというような調査もやっているように聞いております。ですから、やはり、関係自治体の方、支庁も含めてですが、情報の提供をこれからどんどん進めていくのも必要かなというふうに思っております。

それと、個人的な考えなのですが、あり方についての提言をするわけですが、先ほど修学旅行の話もあるように、私はこういうふうな意見があるというのを各委員の方から最後に出してもらって、何でもいいと思うのですが、それを別掲で上げてもらえれば、ああ、こういう考えもあるのかなと。大まかなくくりは皆さんおっしゃっているのですが、私はこうだという1点を上げてもらうのもどうかなというふうに思っております。

小磯委員長

どうもありがとうございました。貴重な提言を含めて御意見をいただきました。

今日は、初めてというアドバイザーの方も全員、御意見をいただきまして、どうですかやはり、最初の論点で提起された整理、やっぱり、皆さん方、同情すべきところ、それから、お気持ちは十分わかるがという前提はあるのですが、せっかくやはり、この釧路という地域で、これだけの将来像を、色々な角度で、色々な立場で議論を積み重ねてきた、や

っぱりその部分というものを、やっぱり少し大切にされて、この検討委員会のまとめとしていかれたらどうだろうか。それはある意味で、皆さん方もこれから総合計画をつくるところ、これから厳しい地方財政の中で新しい活性化の道筋を模索しておられるところ、そういうところにとっても、やっぱりお役に立つということですから、そこは自信を持って取りまとめていかねばどうかなというふうに思います。

さて、各委員の方、付加して御発言、御意見はありますか。はい、お願いします。

#### 出村委員

前回の委員会あたりから気になっていたのですが、市町村のアドバイザーの方もそれらしいことをおっしゃったので、一言付け加えます。

資料4を見ますと、釧根地域の産業資源、観光資源、地域にある資源が色々な分野でまとめられていて、これを見ると非常に豊富です。こうした資源を使って、いかにその地域を活性化していくかということです。このところに、官民挙げてとか、地域住民とか地域経済とかという言葉が出てきますが、官と民という場合、官は、国であり、地方自治体、市町村であり、民ではどうなのかなという、具体的に産業活動をやっている企業や農業、そういうものも民です。だが、もう一つが民としては、先ほど浜中の組合長が言いましたが、修学旅行を受け入れる民間のボランティアがあります。

民といった場合に、産業活動をする経済人もそうですが、ボランティア的に活動をしている人がいます。この根釧で、色々な地域活動があるといったときに、ボランティア的な民がこれには載っていないのです。もしまとめるとしたら、実際に、様々な資源があるこの地域で、民の活動として、一体どういう活動をやっているのかなというのを知りたいと思っています。

前に一村一品運動というのがありましたね。その後、農業の多面的機能に関して、一村一アメニティー運動ということで、北海道で、環境に配慮したアメニティー発揮活動を色々やっている。それは農協や、役場など、そういうところもやっていますが、市民も結構やっているのです。それは表アメニティーと裏アメニティーといえるでしょう。例えば今、色々な地域で川下りなんかをやっていますね。あの発祥は、たしか帯広です。帯広の、そういうボランティア仲間がスタートした活動です。そういう変わった人が、そういう変わったことをやる。それが色々なところに波及していくということです。例えば今の修学旅行生の受け入れを初め色々な、地域のフォーマル、インフォーマルな活動があります。そういう活動が、この根釧で代表的にどういう活動があるのか、どういうおもしろいことをやっているのか、そういうものが、もし調べられるのなら、全支庁でなくてもいいから代表的に、もし参考資料として載せられるのだったら、要望したいのです。ただ、それをやるにはやっぱり時間がかかりますから、それをやって、この報告書が少しでもよくなればいいですが、もしそうでなければ、強くは言いませんが、その辺のことが、私自身、個人的な希望としてはあるということです。

#### 小磯委員長

ありがとうございました。大切な御意見ですし、ただ、部数的にそこを、どこまで受けとめていけるのか、これは後で、この報告書のまとめ方、今後のフォローアップ、その辺

も含めて少し議論したいと思いますので、そのときにまた、事務局のお考えを聞かせていただければと思います。宮田さん、お願い致します。

#### 宮田委員

まとめのところで、字だけを見ているとやっぱりちょっと寂しい感じなので、絵を入れる。こちらのパワーポイントの絵にあるようなものを使って、やっぱり釧根地域がぐつといくような、つまり、本当でしたら、グランドデザインと、プラス、例えば根釧台地のパイロットファームというのが昔ありましたよね。やはり、日本でヨーロッパ型の牧場というか、そういったものをどんどん、やっぱり、これからは肉食や、そういったたんぱく源の供給基地としてというようなことで、そういったものが進んでいったのだと思いますが、やはり、その次に来るような、次のニューパイロットファームではないが、何かそのような絵です。

そういったものがこの釧根地域で、次の役割としてこういったことが、やっていくのだとか、それが農業であり、また漁業でも、今までとって加工してきたところから、やっぱり養殖だとか、付加価値の高いものとか、あるいは農業も、生産物プラス付加価値の高い製造を地域で起こしていくのだとか、そういったことが、これからの地域の中でこれだけ必要だとか、あるいは観光も、要するにこういうことなのだが現状のストックを、つまり資産として持っている色々なものを使って行って、もちろん、インフラ整備プラスそういった、地域のコミュニティー活動によってこういうふうにしていくのだというような絵が2枚ぐらい入ってくると、すごく今までの議論とここの、資料の3の文字だけを見ていくと何か、今やっている施策を書いているような感じにもとられますが、そうではなくて、これが次のそういったところにつながっていくというようなまとめ方が出てきたりとか、あるいは、先ほどちょっと出ていますが、地域のやっぱり、出村先生ですか、物づくりと、そういったニーズが合ってくると、例えば、先ほどのパイロットファームまでいなくても、やっぱりモデル実験を次に結びつけるような、モデル事業をやっぱり、何か一つでも二つでもモデル事業をやるのが、地域にとってはすごく注目される、あるいは全道、あるいは日本国内において、やはりこの地域が負うべき役割というのはこういうことなのだというような中でモデル事業の一つや二つ、開発建設部の予算の中から、何か、昔、地域振興対策室と、今でもありますが、そこが、やっぱりどちらかというところそういったあれを、テーマを拾って、横断的な、地域の振興に対して必要な、何か考えていたような気もしていたのですが、今こそそういった形で、これはまとめの補足でも何でもいいのですが、モデル事業としてはこういったことを今後、検討する可能性があって、そうすることによって、その技術開発を地域内でやると、これは3庁共同の考え方で進めれば、要するにその地域の問題で、地域の、そういったふん尿の問題だとか、あるいは観光の取り組みだとかというようなものを、例えば、今までですと、技術系だったら、北大の先生が今、出村先生がいらっしゃるんですが、北大と、あるいは、この地域だと公立大学、あるいは帯広の畜大だとか、北見の工大という、この道東の知恵と、それから北大などの考え方で、とにかく地域内で問題解決していくプロセスをどんどんつくっていくということが、やっぱりモデル事業の中で必要で、そこに民間企業だとか地域の企業だとかが入ってきて、そのレベルを上げていくような、そういった機会もやっぱりつくっていかないと、いつまでたっ



でもみんな議論だけして、そこから何も生まれないようなことにならないように、インフラ整備プラス、向かっていく目標に向かってみんなもかかわって、そういった中から新しい技術開発をしていくのだというような地域のメッセージというかイメージというか、そういった絵が1枚か2枚入ってきますと、すごくいいのではないかなと、今までの議論が生きていくのではないのかなという気がしました。

小磯委員長

ありがとうございました。あと、いかがでしょうか。石橋さん、お願いします。

石橋委員

私は、まとめとして、一番、開発建設部さんをお願いをしたいのは、日本の行政には環境省というところもありますが、私は、このずっと資料の中にもありますとおり、今、北海道開発建設部が環境整備に一番力を入れているのです。いわゆる環境保全型産業を、この釧根地区で、やれることはみんなやっているのです。今、宮田委員がおっしゃいましたが、それが一つの、国内のモデルとして、やっぱりきちんと位置づけされ、確立されることが、ある意味では釧根に住む皆さんにとっても自信になると思うのです。ですから、環境保全型をサポートする仕事をどんどんやっていくということが今一番私は求められているのではないかなというふうに思っています。

小磯委員長

ありがとうございます。

私の方からも、この検討委員会の役割として、やはり、今、国が進めている新しい北海道の総合開発計画、それに釧路、根室地域から声を出していくという、一つの大きな役割があるということで、それに関連してちょっとお話を申し上げたいと思うのですが、国の総合計画は一応、今年度内に、新しい計画づくりに向けての基本的考え方を整備することで、私も実は審議会部会のメンバーということで議論に加わってまいりました。これから本格的な計画づくりなのですが、実はやっぱり一番、そのねらいとして重いのは、やっぱり国という行政機関が北海道という開発行政を担っていく、そのための意味、意義、理由、それはやっぱり、国の発展のために北海道という地域はやはり、役立つ、寄与するという、その意味合い。それはやっぱりしっかりと位置づけていかななくてはならないという、これは、戦後北海道開発の非常に難しいところ。終戦直後であれば、人口を受け入れるだとか、石炭を掘るとい、それだけで十分に日本の発展に役立ったわけですが、これから北海道がどういう形で、地域の開発の中で、国全体に寄与していくのかというのは大変難しい命題なのです。

その中で、これは私自身がそういう主張をして、取り入れていただいているのですが、やはり、これからの北海道の役割というのは、色々な意味ではやっぱり先駆的な、これからの日本の課題にとって大事な部分をきっちり先取りして、それを先駆的に実施して、それを政策として展開していく、まさにフロンティアとしての、これは、いわゆるハードな話ではなくて、制度設計のフロンティアというような言葉も言っているのですが、要は仕組み、そういう取り組みというものをやっぱり先駆的に取り組んでいく、そういう地域で

あるというところにその意味を見出していくべきではないかなと。そこで私なんか言っているのはやっぱり持続可能な開発という。限られた環境容量の中で、いかに経済発展というものを地域の力で高めていくのか、そういう先駆的な取り組みというものを北海道の中で進めていくという、それがこれからの北海道開発政策の一つの大きなテーマではないかなということです。

そうすると、実は、それを先駆的にかなえられる地域としては、私は、この釧根地域というのは非常に可能性があるのではないかなというふうに思うのです。それはどういうことかという、例えば知床とか、私も今、弟子屈の摩周湖、屈斜路湖でお手伝いをしていますが、本当にしっかりとした地域の財産である自然を守りながら、ただ環境付加を高めるだけではなくて、逆にそこは過度の集客を押さえる形でもしっかりとした地域の発展につながるような、そういう取り組みを持続的にやっていく。これは今、ちょうど、先ほど宮田さんと、それから石橋さんが議論されていた、持続可能型の例えば農業とか、地域産業というものを、環境の保全というものときっちり組み込みながら進めている、まさにこの取り組みが、持続可能な、これからの北海道開発政策をこの地域が先取りしていくという。実はその部分をしっかり伝えて、しかもなおかつそれに対する実践というものを少しでもモデル的に取り組んでいただければ、この検討委員会の取り組みというのは非常に私は意味のあるものに、次年度の新しい総合計画づくりの中にもこれは生かしていける、そういう形に私はなっていくのではないかなと。ぜひそういう形で、今回の検討委員会というのは取りまとめていただきたいなという。

それはもう、現実に、この地域に根差した色々な活動があるわけですから。それで、知床の問題があり、弟子屈の問題があり、それで実際、浜中で、実践的にやっておられる高付加価値の農業、しかも環境に配慮したという、そういうものを社会資本整備という、釧路開発建設部のツールも含めながら、一つのやっぱり、こういう方向性を目指すのだというところで、今まで、1回から3回まで御議論してきた将来像と組み合わせて、ぜひまとめていただければ、当初、この検討委員会で目指した、そういうねらいというのは十分私は果たしていけるのではないかなというふうに感じております。

### 3. その他

#### 小磯委員長

さて、一応今日いただいた事務局からの議論というのは以上でございますが、実はこの後、ではこれをどういう形で今後まとめるかと、スケジューリング的なものも含めて、それから、もう一つ大事なポイントは、ここで今回まとめたものを、どういう形でこれから実施し、それを我々がどういう形でフォローしていくのかという、その辺のところについては、まず事務局の方から考え方をちょっとお聞かせいただいた上で少し議論をしていきたいと思っております。

#### 参鍋次長（釧路開発建設部）

では、私の方から御説明させていただきます。

まず、この委員会のまとめでございますが、先ほど言いましたとおり、18年度ですので、

限られた時間の中で、今、各委員方の意見を反映させた形で1回修正させていただきまして、これにつきましては、最終的には各委員の御了解を得た上で、小磯委員長に一任をしていただいて、まとめていきたいなというふうに思っております。それ以降の、出村先生でありますとか、そういう部分につきましては、多分、その時間内でできませんので、必要に応じまして我々の中で別途対応していきたいというふうに考えてございます。

この委員会の、では今後どうするのかというようなことでございますが、こういう委員会の形式という形では、今年度をもちまして一旦まとめさせていただいて、今後は、我々開発局でありますとか、それぞれの関係機関が、ここに書いてあるような意見でありますとか、特に我々につきましては、この意見を十分踏まえて、行政としての対応、判断という形を責任持ってやっていきたいなというふうに思っています。そのフォローも、ちょっと色々な、先ほどちょっと資料も出しましたが、進捗状況でありますとか、そういう部分につきまして、各委員の方々に御説明するなり、そのときにまた意見を伺うにしても、まだ正式にどういう形で、具体的にやっていくかというのはまだ実は詰め切っておりませんが、何らかの形でこれを、現実に、できるところというのは限られてはいるにしろ、フォローはしていきたいというふうに思っております。それで、場合によっては集まっていたくなり皆さんに御意見をいただくという形でまた、御協力というか、御足労をお願いするということもありますので、よろしくお願い致します。

小磯委員長

ありがとうございました。

そう致しますと、まず第1点の、検討委員会としてのまとめについては、今日いただいた御意見、それも踏まえて修正をされて、その修正については一応、私も御相談にあずかる形でまとめさせていただいて、もちろん各委員の、メンバーの方には御了解いただいた上で、一応実質的にそれで取りまとめていくということですね。わかりました。

それから、今後のフォローということについては、今のところこれという、逆に言うと、それは逆に、各委員の方からも、少しこのような形でフォローアップしたらいいのはいかというようなところの御意見をいただいた方がよろしいでしょうかね。

参鍋次長（釧路開発建設部）

それにつきましては、我々、先ほど言いましたように、具体的にこうやるということまでは詰め切っておりませんので、各委員からの意見をいただきながら、できる限りという形をとって、その中で対応させていただきたいなというふうに思います。

小磯委員長

どうでしょうか、フォローアップの進め方とか、何かアイデアとか、こういう方向が、私はここまで協力するからぜひこういうふうにやってほしいとか、ありますでしょうか。少なくとも事務局の方では、ただつくりっ放しにはしないと、きっちりとしたその後の、進捗なり、そういうところについては、事務的にはフォローアップし、できる範囲での報告はさせていただきたいと、そういうお話ではありましたが。宮田さん、どうぞ。

宮田委員

これまでの議論と、それから色々な資料がまとまっている中で、非常に有益な資料となっているのではないかと思います。やはり、どこかのタイミングで、これは年度の事業だからというのはあるのですが、ぜひ、19年度に入っても、どこかのタイミングで、やっぱり夢をこういうふうに描くのだというような、去年たくさんフォーラムをやり過ぎたので、市民も飽きているかもしれませんが、これだけ緻密に、この活動と、その問題点と、それから課題と、将来こうなっていこうではないかという、これは結論ではないが、色々な可能性についての意見が出ているわけですから、こういったものを出して、やっぱり、地域の中で、やっぱりこれは、一つのパブリックドメインとして、みんなが使える資料としてお配りするの是非常に有効だと思うのです。これをベースに、もっと色々な議論なり、色々なものが生まれてくるようなところに活用できれば、釧根フォーラムというか、そのときには、やはり、隣にある十勝とかオホーツクとの比較もちゃんとして、負けないというか、気合いを入れていくというか、それと、今まで釧根でそういった大きなフォーラムというのは多分ないのではないかと。例えば釧路支庁管内とか根室支庁管内ではあったが、釧根ということでの、こういった問題意識を共有するという場はなかったのではないのでしょうか。ですから、そういった意味では、開発建設部の役割がありまして、釧路における釧路開発建設部の音頭と、そしてまた色々なアドバイザーの皆さんの御協力を得て、そういったものを何かの形でできないのかなというような気がいたしました。

小磯委員長

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。近藤さん、どうぞ。

近藤委員

僕もでき上がりのアウトプットについては、やっぱりしっかりするべきだなというふうに思っていて、まさに今、宮田委員がおっしゃったこと、僕も大賛成で、今まででしたら報告書をつくってそれで終わりというのがほとんどでしたが、ここまで緻密に議論を重ねて、僕はかなり、資料2-2に関しては、相当精度の高い、素晴らしい資料になっていると思いますので、ぜひこれを、一般の市民の方にも、できるだけ広く周知させていただきたいなというふうに思いますので、そういう意味では僕もフォーラム、開催するのは大賛成です。

フォーラムの開催の仕方も、今までですと釧路で開催して終わりというのがほとんどでしたが、そうではなくて、今、宮田委員がおっしゃるように、釧根がこれから一体になって活動していくのだと、一体感を持ってやっていこうではないかというためには、釧路だけではなくて、根室でやるとか、中標津でやるとか、少なくとも3カ所ぐらいで同じフォーラムをやって、広く釧根地域の皆さんに理解していただくということが非常に重要だなというふうに思っていますし、また、報告書のまとめ方についても、公立大の地域経済研究センターでやられているような、簡単な小冊子、8ページぐらいの小冊子をつくって、それを皆さんにお配りして、厚い成果物だとなかなか読むのも大変ですから、簡単なダイジェスト版をつくって、それを皆さんにお示しして、それによって社会資本整備を図っていくというような仕方も、これからは非常に重要になるのではないかなというふうに思っ

ていますので、ぜひその辺も御検討いただけたらなというふうに思っています。 以上です。

小磯委員長

どうもありがとうございました。だんだん要望がエスカレートしてきたというか。ただ、地域経済研究センタースタイルと言われると、私も反論しづらくなって、ただそこは、要望ということで、貴重な意見だと私は思いますが、できれば受けとめていただくような方向で検討いただければと思います。

あと、いかがでしょう、よろしいでしょうか。

今回4回、かなり充実した議論に、私はあったのではないかなというふうに思うのです。だから余り、開発建設部としてどこまでやるかというところにとられることなく、やっぱり、こういう計画づくりとか、構想づくりというのはそうなのですが、実はプロセスが大事でして、結果できたものだけではなくて、その中でどういう議論があって、どういう問題提起に対してどういう作業をして、そのために考える材料としてこのような貴重なものをつくったとかという、そういうものを、やっぱりいい意味で、皆さん方、地域の共有財産にしていけるような、そういう取り組みも実は、こういう取り組みの中では大事な部分ではないかなというふうに思います。

実は今週、29日ですか、私どもも、釧路市が新しく合併になったので、阿寒、音別、釧路という新しい合併の政策効果をやっぱりきちり生かしていくためには、特に観光という、広域的な取り組みで今後進めていく観光政策については、そういう広域的なビジョンが必要ではないかなということで、私どもの地域経済研究センターで、そういうビジョン策定の業務を釧路市と一体になってやっています、そういうものも今回出します。ぜひそういうものも参考にいただきながら、そういう、地元で本当に根づいている、これから実践的に動こうとしているものをうまくいい意味で取り込みながら、ぜひこういう最終のまとめに心がけていただければというふうに思いますので、よろしく願いを致します。はい、石橋さん、お願いします。

石橋委員

そのためには、今それぞれ、住民一人一人の参加意識といいますか、自発的に取り組んで、そういう方向に行くのだったら私はこれをやろうという、そういう意識が芽生えてくるようなことを、やっぱり私はどこかで、言ってみれば刺激を与えるというか、それが必要だと思うのです。そういう意味からしますと、国の政策が必ずしも先導する必要はないと思いますが、少なくとも現時点での町村単位でやっぱりやるべきこと、そこに住んでいる人がやるべきこと、もう金がないのですから、住民が参加して、自分たちでつくっていくしかない時代になってしまったのです。そこに、何か刺激を与えられるような、そういうまとめ方ができれば、私は最高だなと思います。

小磯委員長

ありがとうございました。

どうでしょうか部長、今までの、今日の検討委員会の、いわば、一言最後に、最終の委員会でもございますので、ごあいさつも含めていただければと思います。

松浦部長（釧路開発建設部）

4回の委員会をやらせていただきまして、おかげで取りまとめの段階に来ることができました。小磯先生の御指導のおかげで、やり方につきましても、民間、あるいは大学の有識者のほかに、地域の方全員が加わっていて、しかも公開でこういう議論をしたということは、すばらしいことだったのではないかなと思います。

なお、今日は、中身については若干、我々組織のことをちょっと、ごちんまりとまとまったところはあるかもしれませんが、今日は、そういう開発建設部という立場ではなくて、地域づくりの一員、できれば地域づくりのリーダーという位置づけで、今回の報告書をまとめて、地域の皆さんが活用できるように、そういう方向でまとめていきたいなと思います。我々行政も、その中でできることは最大限尊重をして、このレポートを地域づくりの指針として活用していきたいなというふうに思います。

本当にありがとうございました。

#### 4．閉会

小磯委員長

それでは、これで最終回になりましたが、第4回の釧路地域の将来像検討委員会を終了したいと思います。

どうも、審議に御協力いただきましてありがとうございました。